

第618回茨城県内水面漁場管理委員会 議事録

日 時	令和8年2月18日（水） 午後2時から
場 所	水戸市三の丸1-5-38 茨城県三の丸庁舎3階共用会議室B
議 題	第1号議案 あゆ特別採捕許可について（諮問） 第2号議案 令和8年度目標増殖量について（委員会公示）
報告事項	(1) 令和7年度全国内水面漁場管理委員会連合会東日本ブロック協議会の結果等について (2) 潤沼におけるヤマトシジミの調査報告
出席委員	1番 八角 直道 2番 多田 悦章 3番 坂本 勉 5番 石井 修 6番 高岡 明美 10番 水野 恵美子 11番 湯浅 豊一 12番 今藤 夏子
欠席委員	7番 星井 晴美 8番 三村 陽子
県側出席者	農林水産部漁政課課長補佐 所 高利 " 係 長 今野美紗子 " 水産振興課主査 根本 孝 水産試験場内水面支場技佐兼支場長 根本 隆夫 " 主任 鈴木 裕也
事務局	事務局長 須能 紀之 係長 小沼智恵美 会計年度任用職員 中村 剛
議事録署名人	10番 水野 恵美子 11番 湯浅 豊一
議長	1番 八角 直道
会議内容	開会 午後2時
須能局長	〔開会宣言〕

〔資料確認、八角会長に挨拶を依頼〕

八角会長

本日は、お忙しい中を、また、先月の目標増殖量協議会にもご出席いただき、誠にありがとうございます。

2月も節分をすぎ、暦の上では春ということですが、寒暖差が激しく、皆さんも体調管理には気を付けられていることと思います。

今年の冬は大陸から非常に強い寒気が日本列島に流れ込み、日本海側は大雪になった一方、太平洋側は雨が全く降らず、空気が乾燥するとともに川の水位がこれまでになく下がり、これから海から川を上がってくるあゆの遡上が非常に気がかりです。

私が受けた情報ですが、令和7年も令和6年に引き続き、夏季の高水温の影響で、資源のもとになる親の成熟状況が遅れ、しかも良くなかったということで、流下仔魚量の減少が目立ってきました。あゆは大丈夫だと楽観視せず、関係者で注意深く見ていきたいと思えます。

さて、本日の委員会は、協議事項として久慈川漁協が常陸太田市粟原地先などで行う、あゆ稚魚の汲み上げ放流にかかる特別採捕許可申請の良否を審議いただくとともに、先月の27日と29日の目標増殖量協議会において各組合さんからお聞きした令和8年度目標増殖量について、事務局が整理した原案を公示してよいか審議していただきます。

また報告事項として、令和7年度全国内水面漁場管理委員会連合会東日本ブロック協議会の結果についての報告があります。ブロック内照会・協議事項として本県から各県にお聞きした、ナガエツルノゲイトウの対策については、参考資料として配布しました千葉県と神奈川県資料にありますように、防除のために必要な情報、つまりどこにどれくらい生えているのかを多くの方が広い範囲を監視することを主眼とした対策が行われているようですが、抜本的な解決方法はまだまだという状況のようです。

また、内水面支場からは昨年秋に実施した、涸沼におけるヤマトシジミの調査報告があります。涸沼のシジミについては、稚貝の発生状況は良いものの、その後の生き残りが悪く、資源の状況は令和6年と令和7年が連続して非常に良くないという報告です。今後もモニタリング調査と組合が生産する人工種苗の放流の継続が大事だということです。

本日の委員会は、令和7年度最後の委員会となります。委員の皆様にはご審議のほど、よろしく願いいたします。

須能局長

ありがとうございました。続きまして、会議規程第4条第1項によりまして、会長が議長になることになっておりますので、会長に議長をお願いいたします。

八角議長

それでは、議長を務めさせていただきます。

早速ですが、次第3の出席委員数の報告を事務局からお願いします。

須能局長	はい、現委員10名のうち、出席委員が8名、欠席委員が2名で、欠席委員は7番の星井委員、8番の三村委員です。過半数の委員の出席をいただいておりますので、漁業法第173条の規定によりまして本会議は成立しております。
八角議長	続きますして次第4の議事録署名人ですが、会議規程第7条第2項の規定に基づき私から指名いたします。10番水野委員と、11番湯浅委員にお願いいたします。
八角議長	それでは、次第5の議題に入ります。第1号議案、あゆ特別採捕許可について、説明をお願いします。
中村会計年度任用職員	(資料No. 1-1により諮問文読み上げ)
今野係長	(資料No. 1-1、1-2により説明)
八角議長	はい。ありがとうございました。 昨年の11月の委員会でも説明がありましたが、久慈川漁協さんの方からあゆの汲み上げをしたいということで、石井委員から何かありますか。
石井委員	特にありません。
八角議長	他に、ご質問、ご意見がある方いらっしゃいますか。
八角議長	特にないようでしたら、県への答申についてお諮りします。諮問の内容に、ご異議ございませんか。
(委員一同)	(異議なし)
八角議長	異議なしとのことですので、原案のとおりで差し支えありませんと県に答申することといたします。
八角議長	では第2号議案、令和8年度目標増殖量について、説明をお願いします。
今野係長	(資料No. 2-1により説明)
中村会計年度任用職員	(資料No. 2-2～2-5により説明)

八角議長	<p>今、事務局の方から説明がありましたが、種苗放流によらない増殖について、昨年度も産卵場の造成等を計画していましたが、その結果を踏まえて8年度についても産卵場の造成等を計画しているということです。</p> <p>皆さん、ご意見ご質問等ございますか。</p>
八角議長	<p>意見もないようですので、原案のとおり委員会公示してよろしいでしょうか。</p>
(委員一同)	<p>(異議なし)</p>
八角議長	<p>異議なしとのことですので、原案のとおり委員会公示することを決定いたします。</p>
八角議長	<p>それでは、報告事項に移ります。令和7年度全国内水面漁場管理委員会連合会東日本ブロック協議会の結果について報告をお願いいたします。</p>
中村会計年度任用職員	<p>(資料 No. 3 により説明)</p>
八角議長	<p>東日本ブロック協議会のもとの資料が膨大で、要するに令和8年度の提案書を3月13日に集まって案を作成し、5月の総会に提出するということと、東京都等の提案項目を追加し取りまとめて提出するということです。</p> <p>皆さん、ご質問等ございますか。</p>
八角議長	<p>なければ、次の涸沼におけるヤマトシジミの調査報告をお願いします。</p>
鈴木主任	<p>(資料 No. 4 及びスライドにより説明)</p>
八角議長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>何か、ご質問ございますか。はい、多田副会長。</p>
2番 多田副会長	<p>5月頃、水温が高いと書いてあったが、これは令和7年のみ高いのか。</p>
鈴木主任	<p>いえ、例年この時期には、水温が25℃位になりますので、令和7年が極端に高いわけではありません。</p>
2番 多田副会長	<p>シジミは5月の半ば頃から産卵が始まると聞いたが、成長成熟は何度位からになりますか。</p>

根本支場長	産卵適水温は25℃からですが、15℃以上であれば、餌を食べて成長します。水温上昇によって徐々に成長し、産卵適水温以下でも成熟していくと思われま
2番 多田副会長	15℃以上なら、成熟する可能性があるのですね。ありがとうございました。
八角議長	その他、ありますか。はい、高岡委員。
6番 高岡委員	以前に、コイが稚貝を食べると聞いたのですが、コイは今どうなっていますか。
鈴木主任	水産試験場で、コイがシジミを食べているのではないかと調査したことがあり、食害がないわけではないのですが、今インパクトがあるのがキチヌでして、漁協さんの方でも今年はキチヌを駆除していこうという動きになります。
2番 多田副会長	水温の上昇で、キチヌが増えてきたのかな。
鈴木主任	基本的にキチヌは西の方の水温の高いところに住んでいる魚ですが、海水温の上昇に伴い生息域が北に上がってきまして、那珂川で初確認されたのは2021年です。涸沼川・涸沼でも水温が高くなって増えてきているのだと思います。
2番 多田副会長	それでは、これからもますます増えてきますね。
鈴木主任	ただ、冬になれば暖かいところに戻るかと思います。
3番 坂本委員	2月4日に、シジミ増殖のため覆砂事業を行ったが、そのままどれくらい放置すればよいのですか。
根本支場長	シジミの産卵は夏なので、夏を超えてそこに着底して成長するまでのことを考えると、1～2年程度はそのまま放置した方が良いと思います。また、その砂が流されて無くなっていないかも確認する必要があると思います。
八角議長	その他、ございますか。 今藤委員。
12番 今藤委員	産卵条件の適水温は、25℃～31℃ですが、涸沼特有の水温ですか。

根本支場長	水産試験場が涸沼のヤマトシジミを用いて実験した結果の水温です。ただし、ヤマトシジミの産卵水温は地域によって差はあり、北海道等では25℃以下でも産卵するケースはあるようです。
12番 今藤委員	ありがとうございます。水温の観測位置が操業区域と離れていますが、比較できますでしょうか。
鈴木主任	観測位置の水深は2.4mですが、機器は底から少し上げた1.5m前後の水深に設置しています。また、涸沼でシジミが生息する水深は1.5m前後ですので、大きな差はないかと思います。
12番 今藤委員	ありがとうございます。最後に、東京湾ではアサリを食害から守るために干潟で網掛けをする等の対策がなされたことがあったのですが、キチヌによる食害が資源減少の原因である場合、涸沼ではどのような対策が考えられますか。
鈴木主任	涸沼の場合漁場が広いので、なかなか難しいと思います。以前、多田副会長のところの常陸川で、シジミを守るためのカゴを設置したこともありましたが、涸沼では難しいのかなと思います。
根本支場長	涸沼の場合、干満差が小さく、漁場の水深も1～2mありますので、東京湾でやっているような干潟に防護網を張ってメンテナンスをするということとはできないと思います。
12番 今藤委員	はい、ありがとうございました。
八角議長	その他、ございませんか。
八角議長	では次、次第7のその他に移ります。 県、事務局から何かございますか。
須能局長	事務局からは、ありません。
八角議長	委員の皆さんから、何かございますか。
11番 湯浅委員	ウナギ稚魚漁業を行っている時、米粒大の黒い二枚貝が砂利のように入網するのです。これが何か知りたいのですが。
根本支場長	口頭の説明では分からないので、採集された際には冷凍サンプルとして保

管しておいてください。後日確認いたします。

八角議長

では、本日の議事はすべて終了しました。
それでは事務局より、次回の開催日程をお願いします。

須能局長

次回の委員会は、4月15日水曜日午後2時より、ここ三の丸庁舎3階共用会議室Bでの開催を予定しています。開催通知は後日発送させていただきますので、よろしく願いいたします。

八角議長

それでは、これをもちまして本日の委員会を終了いたします。
お疲れ様でした。

閉会 午後3時30分

上記の記録の正確なことを認め署名する。

令和8年2月18日

議 長 _____

議事録署名人 _____